



りんご生産情報

令和元年 11 月 29 日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

令和元年産りんごの生産概況

1 気象の概要（黒石：りんご研究所）

積雪深は、平成 31 年 2 月までは平年を上回ったものの、3 月以降は平年を下回った。今冬の最深積雪は 2 月 14 日の 116cm で、平年（97cm）よりやや多かった。消雪日は 3 月の気温が高かったことから、平年より 7 日早い 3 月 22 日であった。

気温は、4 月上旬、6 月中旬、7 月上旬及び 11 月上中旬を除き、平年並みから高く推移した。特に、5 月中下旬、7 月下旬から 8 月中旬及び 9 月上旬が高く、真夏日を 35 日、猛暑日を 4 日観測するなど平年よりかなり高温であった。また、5 月は真夏日を 2 日観測するなど、月の最高気温及び平均気温が観測史上第 1 位となった。

降水量は、8 月下旬及び 10 月中旬を除き、長期に渡り少なく推移した。特に、4 月から 8 月中旬までの総降水量 169mm（平年比 42%）は観測史上最も少なく、生育期間を通して記録的に降雨の少ない年であった。

日照時間は、6 月下旬及び 7 月下旬を除き、平年並みから平年より多く推移した。特に、5 月、7 月、8 月及び 9 月が多く、5 月は平年比 148%と観測史上第 1 位、4 月から 10 月までの総日照時間は、昭和 57 年に次いで観測史上第 2 位、平成元年以降では最も多く第 1 位であった。

2 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は、平年より 3 日早い 4 月 6 日、展葉日は 2 日早い 4 月 17 日であった。開花日、満開日及び落花日は平年より 3 日早く、それぞれ 5 月 5 日、5 月 10 日、5 月 14 日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）のふじの発芽日は、平年より 1 日早い 4 月 8 日、展葉日は平年並みの 4 月 20 日であった。開花日及び満開日は平年より 5 日早く、それぞれ 5 月 5 日、5 月 10 日、落花日は平年より 4 日早い 5 月 16 日であった。

3 開花・結実と着果状況

開花量は、各品種とも平年よりやや少なかった。結実状況は、開花期間中の強風やマメコバチ数の不足等により、地域や園地によってはカラムツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。

摘果作業は、果実の初期肥大や形状等にバラツキが見られ、見極めに時間がかかり、例年より作業が遅れた園地が見られた。7 月上旬時点での着果率は、つがる 37.1%、

ジョナゴールド 33.6%、王林 35.9%、ふじ 33.9%で、いずれの品種とも標準着果量を上回っていた。

4 果実肥大（横径）

開花が平年より早かったこと、開花後の気温が平年よりも高く推移したことから、果実の初期生育は平年を上回った。黒石における6月1日時点での果実横径は、ふじが2.1cm（平年比 140%）、つがるが2.3cm（平年比 135%）、ジョナゴールドが2.6cm（平年比 144%）で、各品種とも平年に比べて6～8mm大きかった。しかし、4月から8月中旬まで続いた少雨や7月後半からの猛暑により肥大が鈍化し、黒石では8月21日時点でふじが平年比93%まで落ち込んだ。その後、8月下旬の降雨により、肥大は一部回復したものの、地域や園地によってバラツキが見られた。最終調査時における果実横径は、つがるが8.4cm（平年比 95%）、ジョナゴールドが9.5cm（平年比 101%）、ふじが8.7cm（平年比 98%）であった。地域県民局の県生育観測ほのふじは、青森市、弘前市、板柳町では、平年を上回っており、三戸町では平年をやや上回っていた。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、早生種は平年より3日程度早かったものの、中生・晩生種では平年並みとなった。

収穫始めは、つがるが9月7日頃、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月13日頃、無袋果で10月15日頃、ふじが有袋果で10月30日頃、無袋果で11月4日頃であった。

6 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年に比べて硬度及び糖度が高く、ヨードでんぷん反応指数がやや高く、着色指数がやや低く、酸度が低かった。

ジョナゴールドは、糖度が高く、酸度、ヨードでんぷん反応指数及び着色指数がやや高く、硬度がやや低かった。

ふじの有袋果は、糖度、酸度、ヨードでんぷん反応指数及び着色指数が高く、硬度が低かった。無袋果は、糖度、酸度、ヨードでんぷん反応指数及び着色指数が高く、蜜果率が同程度、蜜程度がやや低く、硬度が低かった。

7 主要病害虫の発生状況

病害の初発日は、モニリア病と黒星病が平年並みであり、褐斑病と斑点落葉病は平年より遅かった。

黒星病は少なかった。発生は5月から見られ、津軽地域では果そう葉や果柄（つる）での発生が見られた。うどんこ病は一部地域でやや多かった。また、津軽地域では心かび病による腐敗果が散見された。その他の病害の発生は少なかった。

害虫の発生時期は、平年並みから平年よりやや早かった。

ナミハダニが多く、リンゴクビレアブラムシが散見された。また、津軽地域においてオウトウハダニ及びナシマルカイガラムシが散見された。その他の虫害は少なかった。

8 生理障害等

ジョナゴールドや王林などでビターピットの発生が目立った。
ふじのつる割れは、例年より少なかった。

9 気象災害

夏季の猛暑により、日焼け果が見られた。

9月23～24日の台風第17号、10月13日の台風第19号が接近したが、ほとんど被害はなかった。

10 まとめ

本年の気象は、春先から高温と少雨が続き、りんご研究所の観測では4月から8月中旬までの降雨量は観測史上最も少なかった。

結実状況は、開花量が例年よりも少なかったことに加え、開花期間中の強風、マメコバチ数の不足等により、地域や園地によってはカラマツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。

果実肥大は、初期生育は良好であったが、その後の少雨の影響で肥大が鈍化傾向となった。8月下旬の降雨以降肥大が回復し、園地や地域によってバラツキがあったものの、最終的な果実横径は平年並みから平年を上回った。

果実品質は、糖度が高く、概ね良好に仕上がった。

病害虫では、高温乾燥の影響で病害は少なく、ハダニ類が多かった。

次年産の対策として、黒星病に対しては、本年は発生が少なかったが、引き続き、越冬被害落葉の処理や生育期の被害果・被害葉の摘み取り処分の徹底に加え、農薬の適期適量散布を指導する。また、結実確保対策としてマメコバチの適切な飼養管理、品質向上と隔年結果防止に向けた早期適正着果の徹底を指導する。

※令和2年りんご生産情報第1号は、令和2年4月上旬頃発表の予定。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5092、5093
017-734-9492直通